

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月16日

事業所名 放課後等デイサービス まなびや

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		目的別にスペースを分け、多目的な使い方にならないように工夫している。	おたより等で利用者様に広報していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		十分な配置数となっている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレはバリアフリー化している。	他スペースは、今後必要な時に改修していく予定である。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の意向に目を向けて、改善点を上げ、業務を工夫している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		まなびやだよりで、保護者に知らせている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		外部研修への参加、またその報告、具体的な利用者のエピソードに応じた検討会など、専門性を高める研修会を計画的に実施。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントシートや成育歴の把握、発達段階や心理検査などを踏まえて療育の方法を協議している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月に2回、分析や見直しを行っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		固定化しないよう、利用者の興味関心や課題を考慮して工夫している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇や季節に応じた取り組みを設定している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別と集団、必要に応じて計画を立てている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りの時間を設けている。情報の漏れがないようにしている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日誌にて、状況・対応・結果及び今後に向けての行動観察ポイントを共有している。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		対象児がいないため行っていないが、必要ならば、保護者の意向に沿いながら、そのような体制をつくっていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				送り出しや面談、月に1回、成長の足跡を発行し、共通理解を図っている。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				個別の対応であるが、送り出しの際や面談等を使い、支援している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○				不定期ではあるが、実施。今後は定期的に実施し、おたよりなどを使って保護者への周知に努めたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	35	個人情報に十分注意している	○				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				年2回実施。職員の役割も変え、万が一に備えている。保護者に確実に情報が伝わるようにしている。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				虐待防止に対する研修を行っている。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				身体拘束について、研修を実施している。
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				ヒヤリハットについては、ミーティング等で情報を共有し、対策や対応についてマニュアル化している。